

2018年度 緩和ケアチームセルフチェックプログラム  
Act から抽出された緩和ケアチームの代表的な課題・問題点 カテゴリー一覧

抽出された Act 数	合計 149 件 (61 施設)
-------------	------------------

<b>依頼元（主診療科・病棟）や患者家族とのコミュニケーションの不足</b>	
・ 依頼元や患者・家族との目標設定に関する情報共有が不十分	18 件
・ 依頼元とのカンファレンス等による情報共有が不十分	10 件
・ 患者・家族の病状認識や意向の把握が不十分	5 件
・ 依頼元と情報共有できる仕組みや場がない	4 件
・ 依頼元とタイムリーな情報共有ができない	2 件
・ 依頼元や患者・家族との検討内容や介入内容の記録上の情報共有が不十分	2 件
<b>緩和ケアチーム活動の評価・改善に関する取り組み不足</b>	
・ 依頼元やチーム内で介入後の目標達成度の評価が不十分	11 件
・ 緩和ケアチームの推奨が依頼元に採用されない理由が不明瞭	7 件
・ 緩和ケアチームの活動評価や質向上のための取り組みが不十分	7 件
・ 症状コントロールが不十分	6 件
・ 介入症例の検討が不十分	4 件
・ 具体的なケアの推奨ができていない	3 件
・ チームメンバーの専門的知識・技術の不足	1 件
<b>緩和ケア提供体制の整備や機能周知が不十分</b>	
・ 緩和ケアチームの機能や体制に関する周知不足（対 医療者・患者）	12 件
・ 緩和ケアチームへの依頼方法の周知不足	10 件
・ 緩和ケアに関する症状評価ツールやパスの運用が不十分	5 件
・ 外来緩和ケアの提供体制の整備が不十分	4 件
・ 処方権限や推奨薬剤の副作用対応などについて責任の所在が曖昧	3 件
・ 緩和ケアチームメンバーの役割分担が不明確	2 件
<b>緩和ケアチーム内のコミュニケーション不足</b>	
・ 緩和ケアチーム内で症状緩和の目標設定等の情報共有が不十分	14 件
・ 緩和ケアチーム内で専門家としての所見や診断に関する情報共有が不十分	7 件
<b>緩和ケアチームが介入する患者・診療科・職種の偏在</b>	
・ 苦痛のスクリーニングの実施体制が不十分	7 件
・ 多職種からの依頼がない	3 件
・ 一般医療者・患者・家族の緩和ケアに関する認識不足	2 件